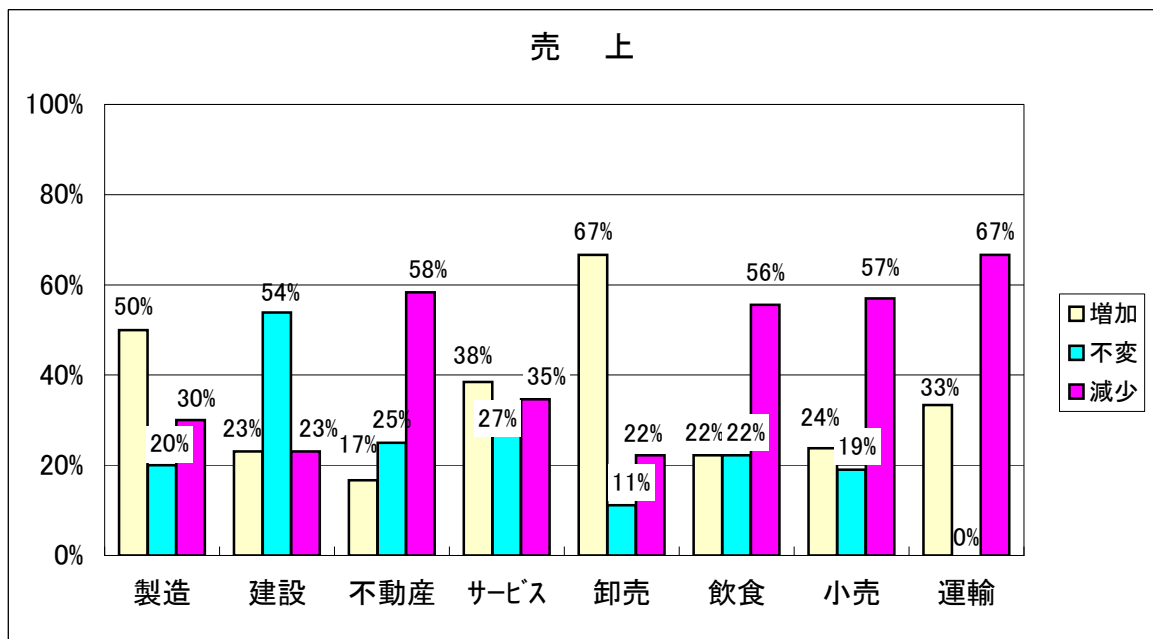


**調査1** 平成24年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と及び平成24年下期の見通しについて比較表示してある。

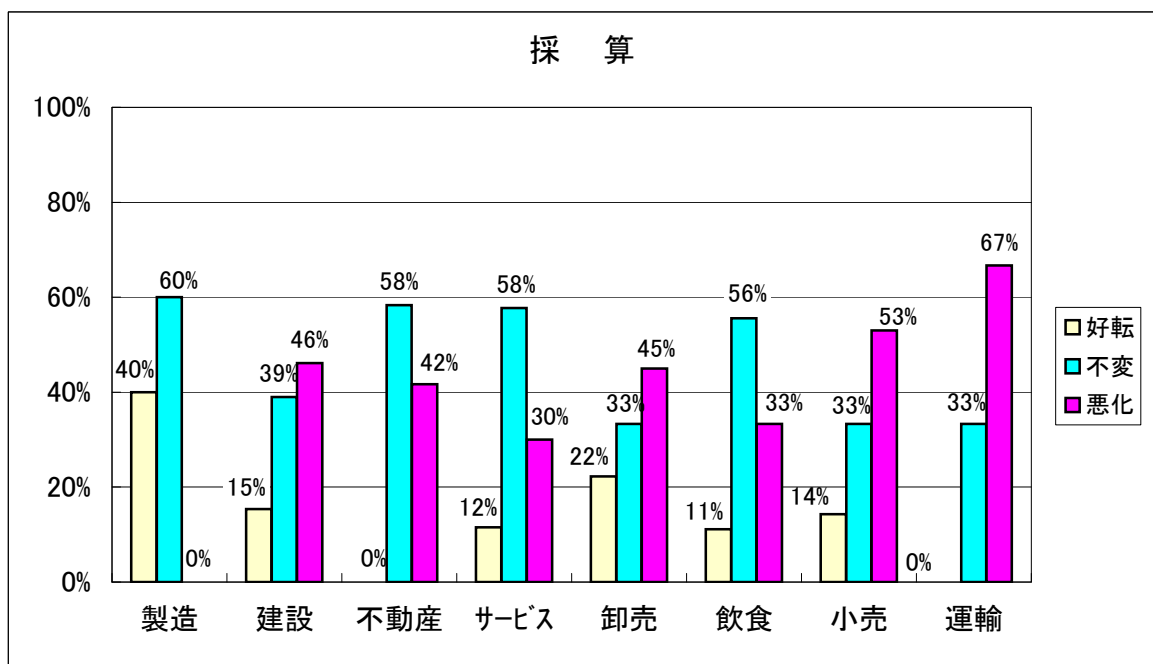
**①売上について**

全体で見ると、「増加」34%（前回17%）、「不変」22%（前回23%）、「減少」44%（前回60%）であり、前回調査と比べると「増加」が7%アップし、「悪化」は16%ダウンした。業種別では、増加傾向にあるのは卸売業（67%）製造業（50%）が目立ち、減少傾向なのが運輸業（67%）不動産業（58%）小売業（57%）飲食業（56%）であった。



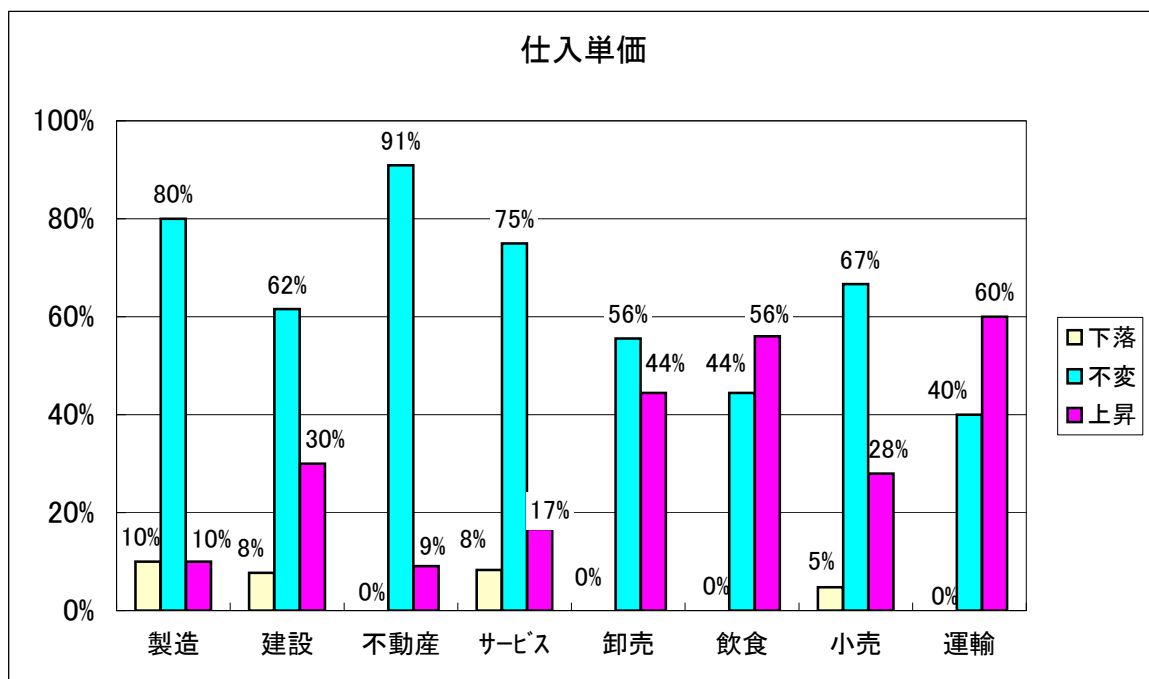
**②採算について**

全体で見ると、「好転」14%（前回19%）、「不変」46%（前回30%）、「悪化」40%（前回51%）であった。業種別では、製造業（40%）が若干好転の傾向がみられるものの全体的に「不変」「悪化」の傾向が大きい。特に、運輸業（67%）小売業（53%）が悪化傾向が強い。



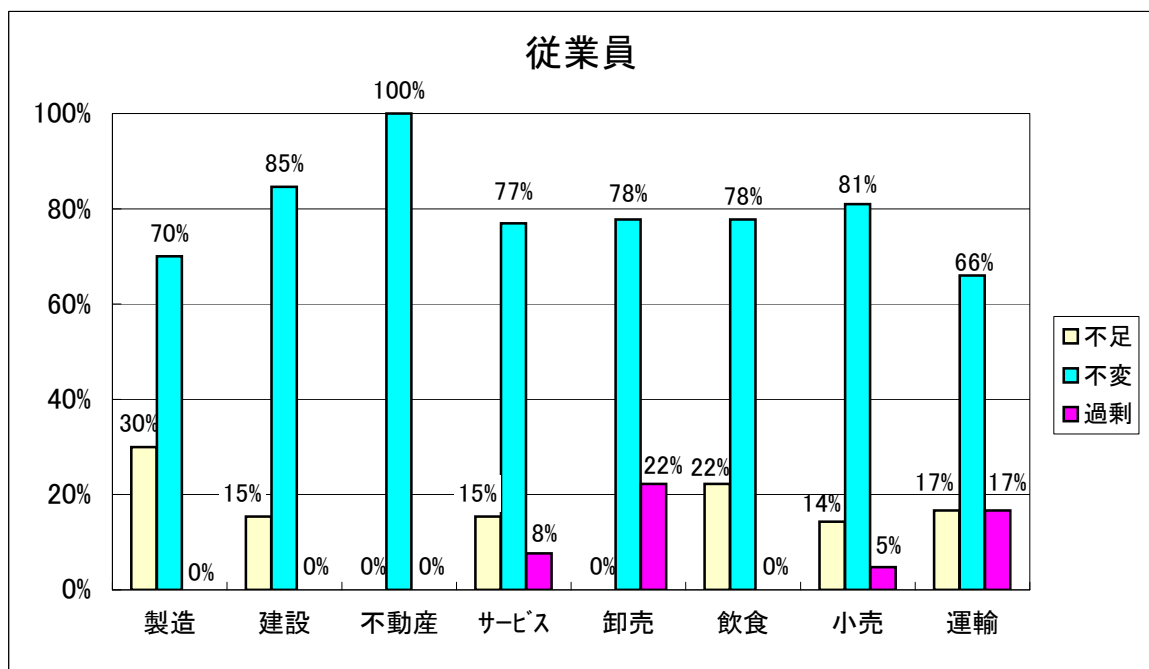
### ③仕入単価について

仕入単価で、大きく「上昇」に変動しているのが運輸業(60%)飲食業(56%)となっている。原油、穀類の高騰が原因とみられる。

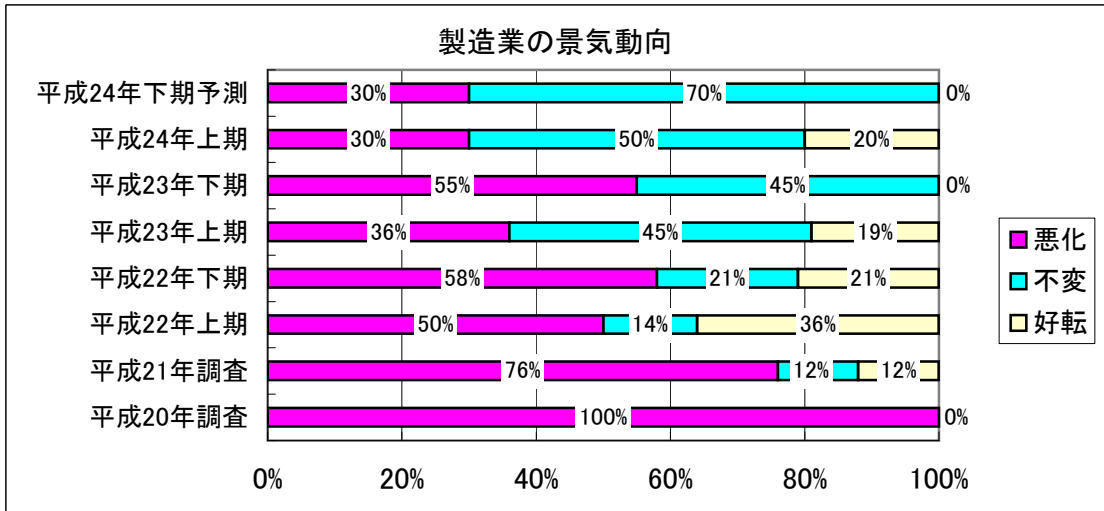


### ④従業員について

全体で見ると「不変」と回答が多い。「不足」が多いのが製造業(30%)、飲食業(22%)となっている。「過剰」が多いのが卸売業(22%)であった。

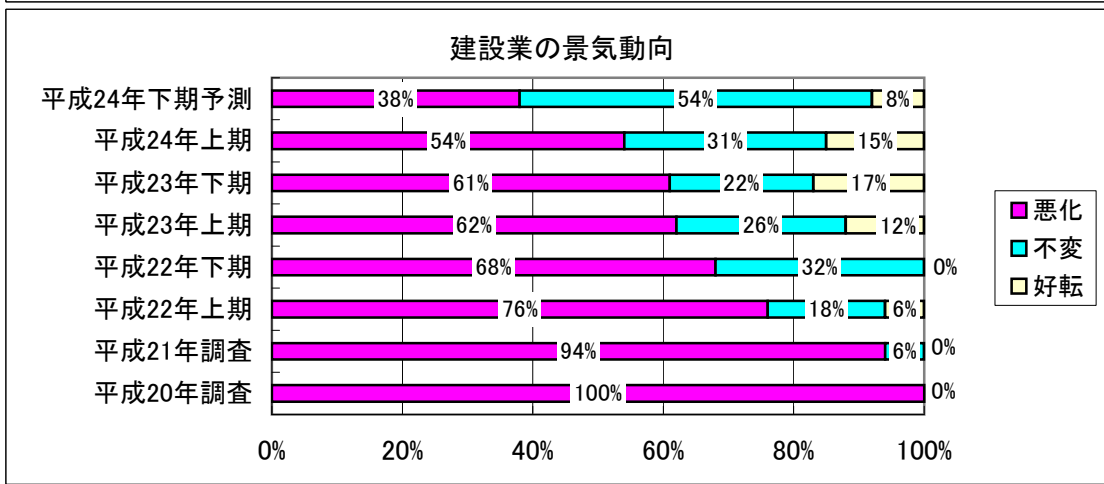


## ⑤ 業界の景気動向について



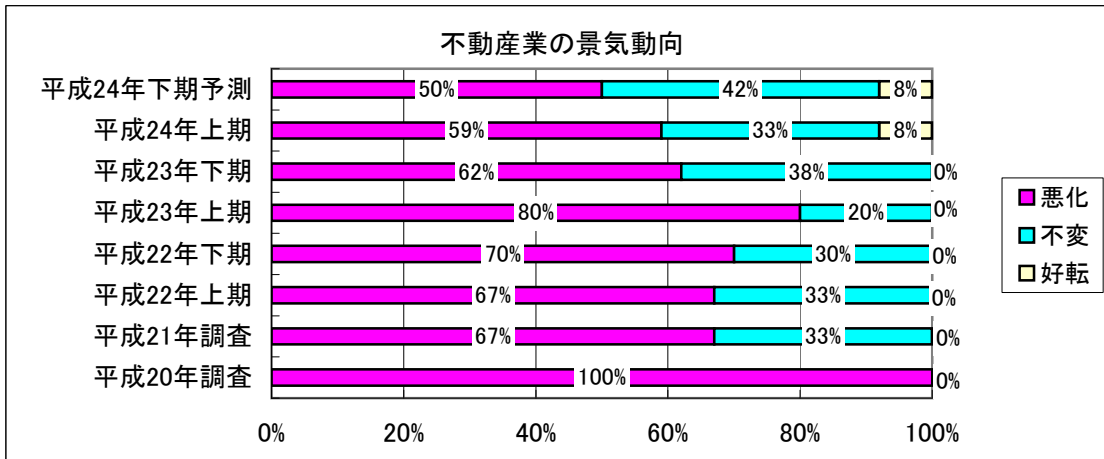
### ■ 製造業

平成24年上期では、「売上」増加の傾向がみられるように、「好転」(20%)の企業があり、前回調査より景気の上昇がみられる。下期は70%の企業が「不変」と回答している。



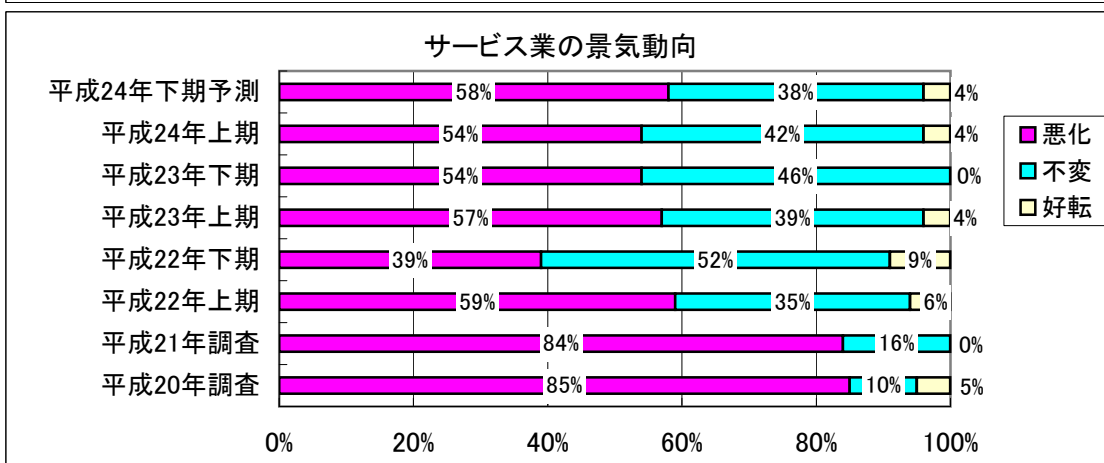
### ■ 建設業

平成24年上期では、「好転」が15%、「不変」が31%で「悪化」が54%であった。過去の調査からみると徐々に改善の兆しが見えている。



### ■ 不動産業

平成24年上期は、「好転」が8%、「不変」が33%と前回調査から若干好転の兆しがみられる。「悪化」が徐々に減少している。

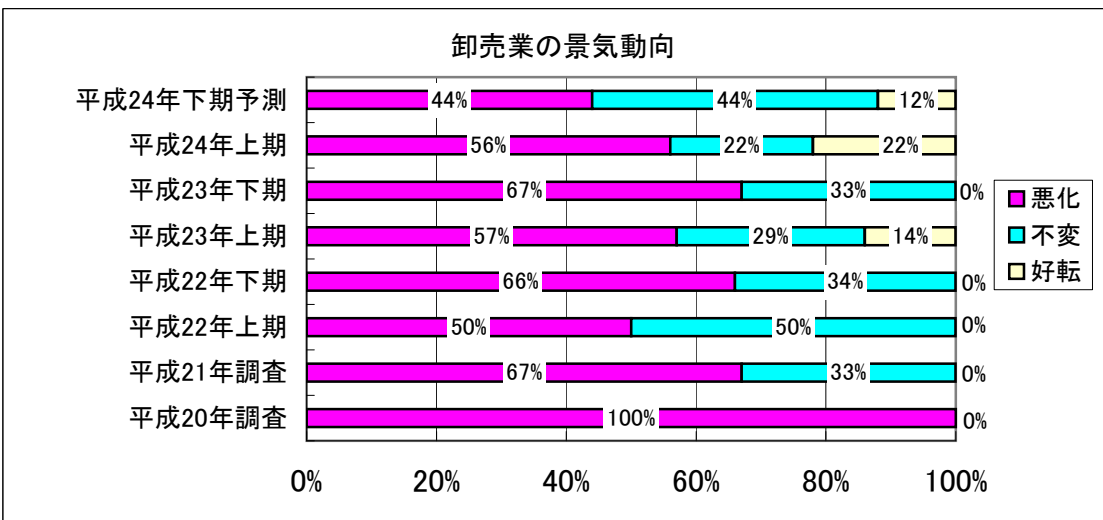


### ■ サービス業

平成24年上期では「好転」が4%、「不変」が42%となり、前回調査より若干好転になっているが、下期の予測をみると「悪化」が58%と増えており厳しい状況になっている。

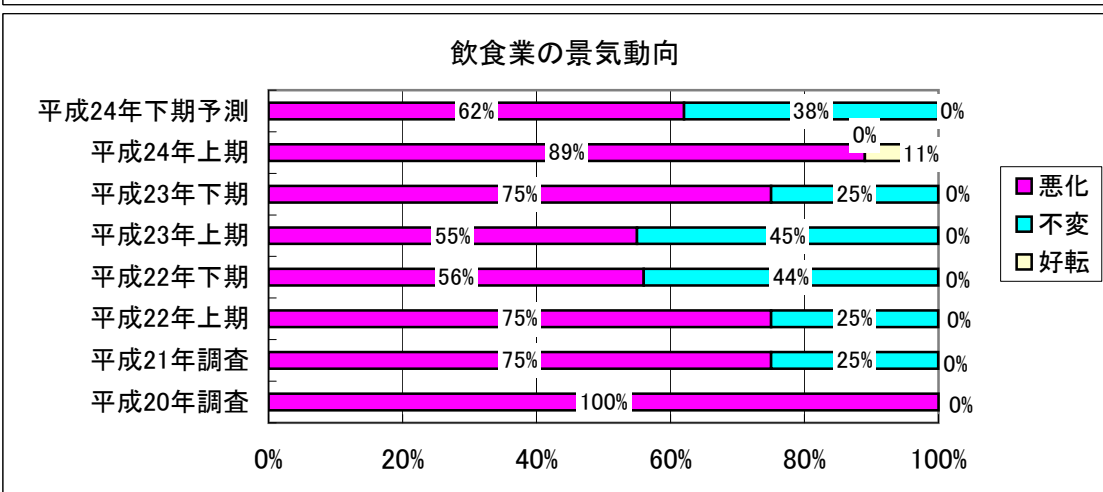
### ■卸売業

平成24年上期は「好転」が22%、「不変」が22%となっており、前回調査からかなり改善傾向になっている。平成24年下期の予測では、「好転」が12%、「不変」が44%と好転の予測になっている。



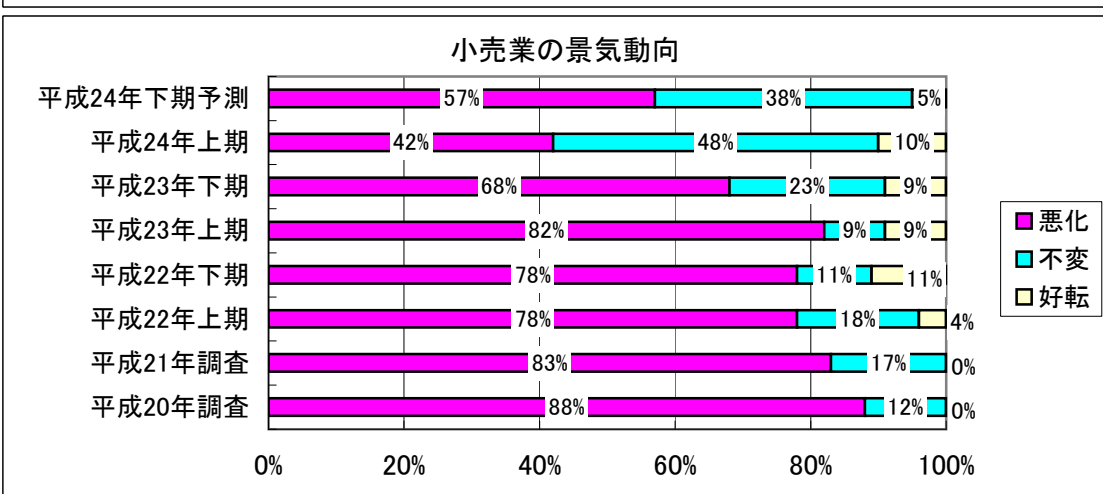
### ■飲食業

平成24年上期では「好転」11%となっているものの89%が「悪化」と回答し、非常に厳しい状況になっている。下期の予測も62%が悪化と回答している。



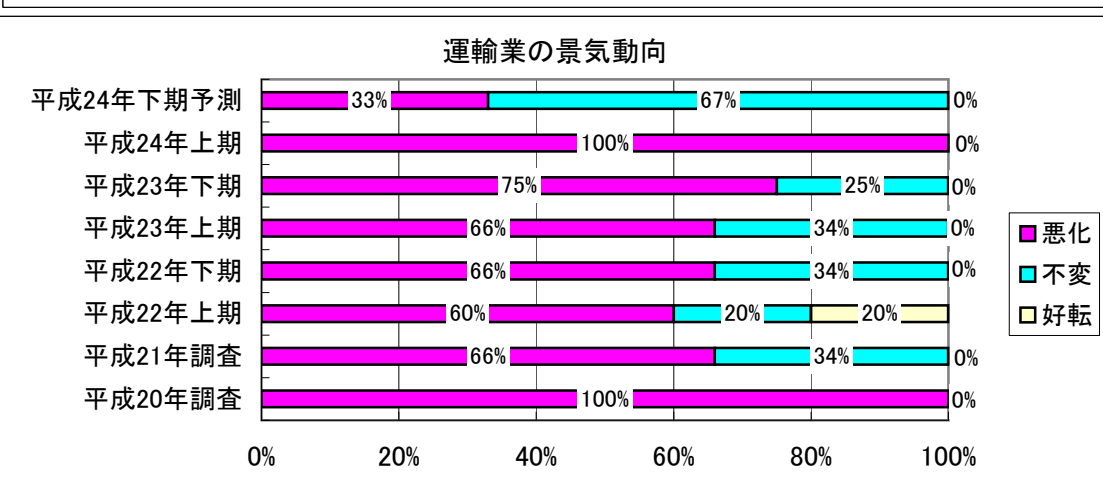
### ■小売業

平成24年度上期は「不変」が48%、「好転」が10%と前回調査よりは若干上向きの気配が感じられるが、下期予測では57%が「悪化」と回答している。



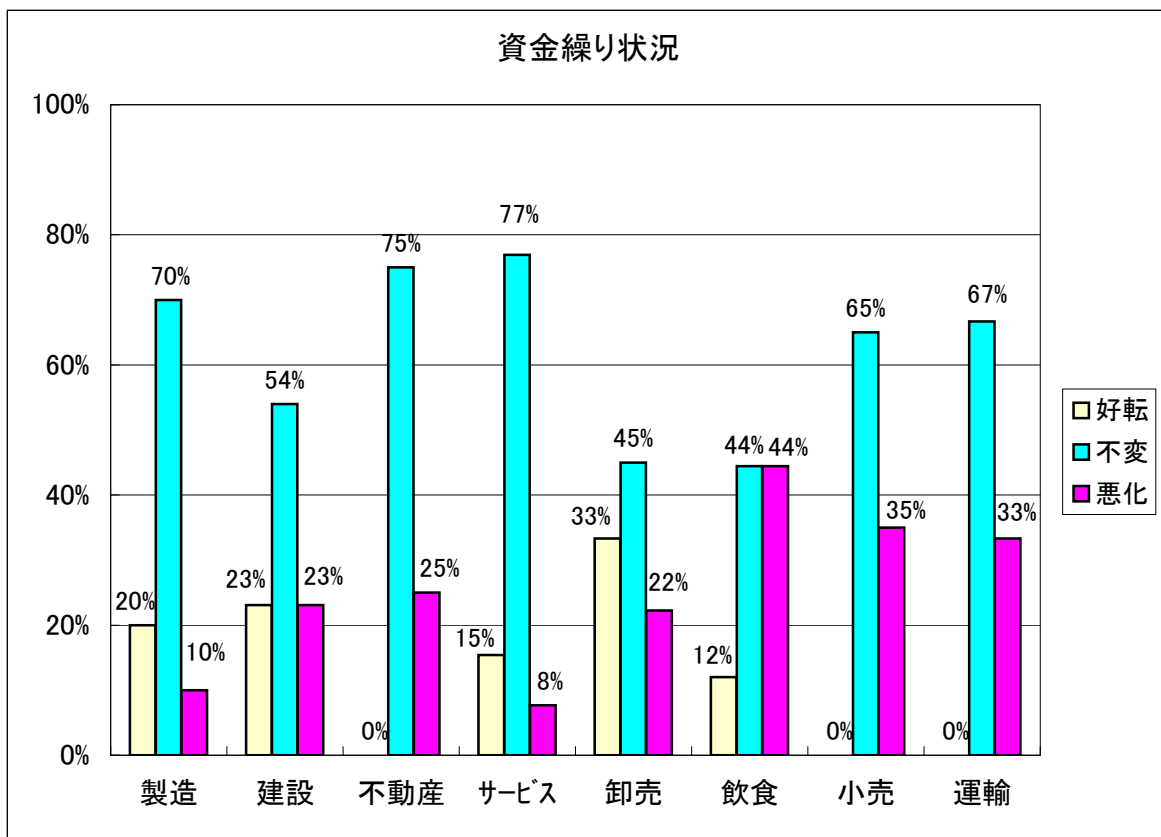
### ■運輸業

平成24年上期は「悪化」したが100%と前回調査より景気は悪化している。これは平成20年調査以来、2度目の全企業100%となった。「不景気による物流量の減少」が主な要因と考えられる。



### ⑥資金繰りについて

全体で見ると「不変」が62%（前回65%）、「悪化」が25%（前回40%）、「好転」が13%（前回5%）と回答している。「好転」の状況がみられるのは、卸売業（33%）、建設業（23%）、製造業（20%）である。前回調査で「悪化」が著しい業種だった卸売業がかなり改善されてきている。



### ⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が58%（前回48%）、「融資無し」が22%（前回32%）、「厳しい」が11%（前回15%）、「緩やか」が9%（前回5%）であった。

